

次に、1 番 朝長議員の質問を許可いたします。

御登壇を求めます。

1 番 朝長議員

朝長議員／皆さん、こんにちは。

議長より登壇の許可をいただきましたので、1 番朝長勇の一般質問をはじめます。

今回の質問項目についてはですね…あ、その前にですね、4 番バッターとかラストバッターということで、前回の先日の野球大会のように内野安打を狙っていきたいです。

大きく 2 つ。

教育についてと、市内の人材活用についてをあげさせていただいています。

まちづくりは人づくり、人づくりはまちづくり、といわれますように、中長期的な観点で見た場合、教育そのものがまちづくりであるというくらい重要なものであると。

私も、教育というのを大きなテーマとして、取り上げさせていただきました。

まず、反転授業について。

これは、直前の上田議員をはじめ、複数の議員さんが取り上げられて、内容については、網羅的に御紹介されていると思いますので、これについては、感想というか、それを述べさせてもらって、次にいきたいと思います。

あと、人材育成については、中途採用の職員の能力等の活用についてお尋ねしていきたいと思います。

教育について、準備作業をしていく中で、私としては懸念を感じる問題というか、道德に関する問題なんですけれども、これについて、掘り下げて私の考えを述べさせていただきます、教育長、そして市長にも、私の考えについての見解を求めてみたいと思います。

よろしくお願いします。

反転授業についてですけれども、内容については、先ほどの質問でも出ていましたと思いますので。

内容について、私として、どう感じているかと言いますと、まずはですね、子どもの適性とか能力。

要はできる子、できていない子が、素早く把握できることによって、理解度に応じたきめ細かい対応ができる、そういう教育が行える。

または、早くできた子どもが、遅れている子どもをフォローしたりして、子ども同士のコミュニケーションとか連帯感、そういうものを育む多面的な効果が期待できると感じています。

ただですね、教育というのは、保護者、地域の協力が当然不可欠になってくると。

この一般質問等、議会等を見ている方は、ある程度、反転授業について、どういうものなのか、どういう効果があるのかは、理解していただいたと私自身思っていますが。

やはり保護者にとっては、まず不安というのは、何が不安かというのは、新しいものに対

する知らない、わからない、という不安と、わかったにしても、それでもうちの子はついていけないのではないかと、そういう不安をどうしても抱く。

その辺の細かいフォロー、子どもに疎外感を与えない。

そういうフォローが、非常に大切になってくると思います。

これについても、各校で説明会を開いていくと、説明していくと。

とにかく3月まで、新しい取り組みを4月から始めると。

今から3月までの準備態勢と言いますか、順調なスタートを切るために教育長を始めですね、先頭にして、教育部がまとまって、その思いと言いますか、それを共有して、各学校に伝えて、熱意と言いますか、それをしっかり保護者に伝えて、初めて新学期を迎えていただきたいとお願いしたいと思いますが、これについて教育長からひと言お言葉をちょうだいしたいと思います。

よろしくお願いします。

議長／浦郷教育長。

浦郷教育長／代田教育監も熱意いっぱいに答弁されておりますとおり、すでに議会終わった後も夕方まで出かけて、説明会をしてもらっております。

そういう意気込みで進めます。

3点だけ、申し上げます。

1つは、武雄市の子どもにとって、苦手であった家庭学習の時間、それと連動して高めていきたいというのが1つ。

もう1つは、タブレットの導入だけが話題になりがちだった、この大きな事業に、学習方法の改善という…連動して進めることができるのが2点目。

3つ目は私どもにしましても、何かいろんな会議にしましても、前もって準備があるときの参加というのは、やはり期待もし、課題をもっていくので、事前にそれだけの学習をもって、予習をして教室に臨むという子どもたちの学習意欲は当然高いもので、学力にも、帰結するものであろう。

この3点をもって、教育にあたります。

議長／1番 朝長議員

朝長議員／反転授業そのものについては、これで終わりにしたいと思いますが、これも先ほど上田議員からも出ていましたが、土曜日授業というのを私の考えとしては、保護者の意見もありはするんですが、拡張していく方向で検討していただきたいとは、思っています。

その理由というのは、私自身の経験を言わせていただきますと、ある講習会に参加しまし

て、それが、講習を聞いて終わり、というものではなくて、記憶法といいますか、覚え方、記憶術の講座みたいな感じだったんですが、とにかくグループを作って、みんなができるまで帰れませんという講座だった。

みんなやはり、自分だけでできずに、みんなに迷惑をかけるんじゃないか、という恐怖感というか、そういうのを抱くわけです。

自分だけできんじゃなかろうか、みんなに迷惑かけてなかろうかと。

実際、それが行われてみて、速い人、遅い人が出てくる。

でも、最初にみんなができるまで、帰れないということになっていけば、できた人はできない人の心配をするようになる。

そこで、非常に心理的な連帯感というか、そういうものが生まれてくるわけですね。

できない人を思いやる、またできない人もできる人から教わったり、一緒に空間、時間を共有することによって、人間的なつながりも非常に出てくるというのも私も実感いたしました。

そういう意味で、反転授業に限らず、義務教育レベルの授業というのは、できる、できない、というよりも、習得するのが速いか遅いかという、問題だと私は思っております。

そういう意味で、しっかりできない子もフォローしていく、できない子じゃない、遅い子を、ですね。

そのためには、時間というものがどうしても必要だと。

地域とか家庭でフォローでするとなると、どうしても、家庭環境の差とか、収入による差というのが出てくる。

塾に行ける子、行けない子、地域行事に参加できる子、できない子が出てくる。

そういう意味で、授業としてみんなが参加するという授業の時間を十分に確保してほしいという思いがあります。

それと、その授業の中で、自然体験やボランティア活動など、そういう活動が子どもの好奇心を育て、結局、学力の向上に効果があるということは、いろいろなところでデータとしても出されています。

そういう意味で、土曜授業の拡張というのを…きょうの新聞でも、先ほどありましたが、出ていて、週休2日前提で地域行事等ができあがってしまっていて、なかなか急に対応ができない。

また、学校側の先生方の勤務形態等の問題もあるというようなことも書いてありましたが、徐々にでも増やしていくという方向で考えていただきたいと考えておりますが、教育長の見解をお願いします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／1つは、冒頭やりましたように、学習の課題にもよると思いますが、上手く

いけば、学年によっては、一緒に学習、残ってでもやりなさいという効果的な場合もあるかも知れませんが、すべてにそれが共通して良い方向だとは私は思わないところもあります。

現在、年間 10 回程度の、時間としては、30 時間くらいになると思いますが、それをめどに各小中学校やってもらっています。

特に、これまで申したように、親子ふれあい学習会とか、ふれあい道德の授業とか、職場体験とか、あるいは学習発表会、平日にやろうとしたら、保護者の方がなかなか来にくかったところを、土曜日に持つてくることで、平日の授業が確保できるというような形での、土曜日等の開校がなされているような状況を見ます。

そういう意味では議員もご指摘のあったように、いろんな社会体育、あるいは部活動等の絡みから考えますと、月 2 回というのが現実的には厳しいかなという判断をしています。

また、放課後教室などで一生懸命続けて、継続して、これまで積み重ねてきている地域もごさいますので、先ほど申しましたように 26 年度についても 10 回程度が限度かなと思われます。

議長／1 番 朝長議員

朝長議員／土曜日授業そのものは、授業時間の確保というのが、私が今いった観点では、目的ですので、土曜日に限らなくても、やるべきこと、内容によって放課後とか、いろいろな対応方法を柔軟に今後は考えていってほしいとは思っています。

次に移ります。

道德教育について、冒頭申し上げましたけれども、いろいろ一般質問の準備等を進める中で、私が懸念するデータとありますが、がありまして、それについて、道德教育について、国のほうでも道德の教科化とういのが、検討されているようですが、非常に大切といいますか、知・徳・体とよくいいますが、道德というと、どうしても漠然とした感じがあって、何をするのが道德なのか、何をどうするかいろいろな考えがあって、評価をどう評価するのか、非常に難しいということで、何かとらえどころのない教科でもあるかなと思います。が、それについて、私の考えを述べてみたいと思います。

その前に、その質問をするに至ったデータといいますか、日本青少年研究所というのが 2011 年、おとしに出した調査結果ですが、高校生に対して、私は価値のある人間だと思う、という問いかけに対して、赤が、全くそうだ、ピンクが、まあそうだ。

緑が、あまりそうではない。

黄緑が、全然そうではない。

ということで、赤・ピンクが自分を肯定的に捉えている。

自分は価値のある人間だと。

緑、黄緑というのが、否定的に捉えている。

自分は価値のない人間だと思っている。

アメリカ、中国、韓国、日本の4カ国を比較したときに、肯定的に捉えている高校生が、アメリカは、89.1%。

中国が、87.7%。

韓国が 75.1%。

日本が、36.1%。

これを見て、非常に私はショックを受けたんですね。

普段の勉強や学校の活動とかでは、こういう面は、なかなか感じる事ができない。

このデータを見たときに、真っ先に思い浮かんだことが、ここ3年くらいの間で、私の身近なところで、2人ほど、自ら命を絶った方がいらっしゃいます。

それぞれ、いろいろ事情はあったかと思いますが、直接的な原因よりも、障がい…つらいこと、困ったこと、障壁にぶつかったときの乗り越える力、大切さというのを感じたわけです。

自分の価値があると思っていなければ、つらいことがあったときにすぐに逃げる。

そういう弱さというのが、日本の学生にはあるのではないか、という危惧を抱いたわけです。

なぜ、こんなのか。

考えたときに、歴史家のアーノルド・トインビーという歴史家がいらしゃって、13歳くらいまでに民族の神話を学ばなかった民族は、例外なく滅んでいる。

これ、アーノルド・トインビーと、はてなをつけていますが、これをアーノルドさんが言ったかどうか、確証がどうも、怪しいところがあるみたいなんです。

それで、はてなをつけているんですが。

この文章自体は、いろんなところで引用されていて、非常に、心に訴えるものがある、というのは確かだと思います。

そして、私たちが生まれ育ったこの日本というのを考えた場合に、戦後ですね、神話、日本と言えば古事記、日本書紀というの、アメリカの占領政策で教えなくなったと。

ここに非常に関連があるのではないか。

証明する手段はありませんが、私としては、そう感じたわけです。

価値のある人間と思うかどうかって、結果に対して教育長、どう感じられますか。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／事前にいただいておりませんので、それこそ、感想的になるかわかりません。

この調査結果はよく出される資料でありまして、いくつかは、日本人らしい謙遜の部分もあるかなという気もするんですね。

武雄で調査しても、武雄の場合、結構低くなるんですね。

そんな私はそんなことありませんという、感じの数値が出てきやすいですね。
それを差し引きましても、あるいは、よその国の人の自信過剰な言動とか見ますと、どこの国とは、言っておりません。
そういうところを、差し引いたにしても、やっぱり、今言っている、自己存在感、自己肯定感ということを、今頻繁に言われますが、その辺りが育っていないんじゃないかということは、確かに感じます。
その裏返しが、いわゆる道徳として教えなければいけない部分があるのではと。
教科化してでも良さを認めていくことが必要だという論になってきているとなろうかと。
すみません、感想的なことで。

議長／1 番 朝長議員

朝長議員／そしたら、続きます。
そしたらですね、戦前日本も、人間教育はどうやって教育は行われていたかというのが、実語教とって、中身はご存知の方多いかと思いますが。
これ25個ぐらい説があるのですが。
この文自体は、目にしたことあられるかもしれませんが、これが平安時代に、著者は不明なんです。
それで戦前まで、1000年くらいは、ずっとこの幼少期の教科書として、これを教えるじゃなくて、暗記させる、これが徹底的に行われたと。
道徳で何を教えるか。
なかなか、教えようとすると、先生にも、規範といいますか、変なことはできないといいますか、例えば、先生が立派なことを教えて、まちで見かけたときに、たばこをポイ捨てしよったって。
それでもうその時点で、教育自体が壊れるわけですね。
やはり、歴史や文化を背景としたものをしっかり伝えていく。
そのためにも、時間の確保が必要だと思っています。
繰り返しになりますが、古典や、神話というのは、私としては、ぜひ授業時間を拡張できれば、取り入れていただきたいという思いを思っております。
これについて、繰り返しかもしれませんが、再度、見解をお尋ねします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／基本的に、やはり、現在の教育で、日本らしさというのは、何なのかというのが、国際化の中で、逆に問われているという部分は確かにあると思います。
そういう意味では、小学校の教科書から古典が入って来たりしているわけで。

そういう面で、そこに書いてあるような、古典に学ぶこと。

あるいは、先ほどの画面にありましたように、教えられることよりも、その人の行動に学ぶという、そういうことまで含めて、子どもの道徳性を考えるときに、逆に私ども大人に跳ね返ってくる部分というのを一緒に考えていくと。

第一次的責任、家庭にありますよ、といっても、そう見切るんじゃないくて、今一緒にできることは何なのかということを考えていくことかなと。

議長／1 番 朝長議員

朝長議員／よければ市長、そういう教育に関してどういう考えを持っているか、お聞かせ願えますか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／教育長と全く同じであります。

議長／1 番 朝長議員

朝長議員／今、こういう考えを非常に、大切にするといいですか、日本の伝統文化をもう1回取り戻さないといけない、ということで、そういう活動いろいろ、そういう組織はいろいろあると思うんですけど、その中の1つ、国民文化研究会という集まりに、私も研修会で参加させてもらったことがあります、そういうところに参加される方は、非常に企業の経営者や役員の方が非常に多く比率として参加されています。

やはり、企業というものがそういう人材を求めているというのを肌で感じます。

そういう意味でも、就職する人のそういう道徳をしっかり教えられた人材というのは、経営者にとっては魅力のある人材でもあると。

私自身、小さいながら会社を経営させてもらっていましたが、能力が高くても、無断欠勤する、遅刻するなど、今後わからん、そんな人間は使い物にならないわけです。

例え能力は低くても、まじめに必ず毎日来る、欠勤するときは連絡を入れる。

人として当たり前のことをきちんとやってくれるほうが経営者としては助かるわけです。

そういう意味で、道徳をしっかりやってますよ、ということも学力と同じようにPRできる、と私は考えて取り上げさせていただきました。

古典の暗唱とかは、タブレットの活用も今後考えていけるかなと思って、取り上げさせてもらいました。

教育現場の環境について、教育現場の感想というのは、先生方の子どもと向き合う時間をしっかり確保するという意味で、鉛筆の持ち方や箸の持ち方とか、そういう学校に来るま

でに教えておくべき事は、きちんと親がやってくださいと、そういうのをきちんと saying いく、伝えていくことが、まず必要だと思うんです。

毅然とした態度で親に接する。

今、風潮として子どもにとって問題、いじめとか、体罰などがあると教育委員会が矢面にさらされることが多いですが、実際の子どもを守る活動は、PTA として親と学校、先生と、親、保護者が協力してやっていくという意味では、教育委員会のほうからしっかり、それに対して多少厳しいことも言っていく、それが実際に現場にいる先生方の動きやすい環境整備につながっていくのではないかと考えているのですが、これについて、教育長は、どう考えられていますか。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／この問題については、いろんな考え方がありますし、私ももう少し現場の環境をよく把握しないと、答えづらい面がございます。

この問題については通知いただいておりますので。

議長／1 番 朝長議員

朝長議員／どちらにしても、保護者の問題がとても大きいと思います。この前の青少年育成キャンペーンの際に子どもをしかれない親が多いことが、問題になっていました。

それでは、次が教育に関しては、いろんな市長も教育にしっかり力(ちから)を入れていくということで、教育監もその思いを受けて学力日本一を目指すという力強い言葉をいただいています。そういう意味で、どうしてもなにかやろうとすると、予算という話になります。参考にまでに、過去の3年程度の教育費というのを見てみようということで、整理してみました。武雄に関しては去年の分までデータがとれましたので、去年分ということで。今は箱物がいっていると上がるので、単純に比較はできませんが、ほぼ横並び、性質として。今後、非常に教育のもつ意味合いが非常に大きくなります。そういう意味では、必要に応じて手厚い予算配分をしていく必要だと思います。

それでは次の質問に入ります。市内の人材育成活用について。市内とは職員の皆さんですね。今回は中途採用者。民間のキャリアを持っている方。キャリアをどう活用していくか。またそれを、どう評価していくか。それはやはり、中途採用者のキャリアは、ある意味市民の財産でもある、それをどういかしていくか。きちんと働いた人は評価する。やりがいにつながる所以需要だと思って今の現状をお尋ねします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／この答弁に入る前に、ちょっと気になったのが、教育予算の割合の予算が出たがあれは全然あてになりません。例えば、学校を建設するとなったときは多額の予算が投入されるので。一気に 13.6%になる。こういう比較は一番意味がないと思う。予算ではなくて、どういうことで評価されるかが、最も大事だと思うので、あの数字が出てくるのは、価格の問題ではないので、誤解を与えかねないことは、私自身危惧しています。次の庁内の人材育成・活用の中途採用は当たり外れがある。当たる人は、とことん当たってます。

議長／1 番 朝長議員

朝長議員／人事、配置、採用はリスクを伴う、これは当たり前のことで、当たった人、あれですが、要はきちんと能力にあわせた昇給制度。今後入ってくる方に PR になると思います。あつた人はきちんと評価してくれれば良いという認識でよろしいでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／よろしいでしょうか。要は、合う、合わないがある。中途採用だろうが、新卒であろうが、組織に合う人も合わない人もいます。それともう一つ、この人は係長で良くて課長で、課長でだめでも部長ならいいとかある。ポジションの問題はすごくあります。そこを評価はしっかりやっているので、大丈夫だと思います。

もう1点は、中途採用者の危惧が、公務員の人たとえば、山田 恭輔さんという人がいて、その人はもともと公務員だったので、事務作業は割と延長線でできるのですが、民間企業と公務員の世界が違う。宗教でいうと、キリスト教とイスラム教ぐらい違う。そのときに無理に事務はこうやれとか、当てはめるとせつかくいいものがつぶれる危険性があるので、そこはしっかり見なおすべきだと思う。

中途採用を開始して、最初にフルタ君というのが入ってきてくれて、彼がすごく良くて、いろいろな苦労とかの話聞いたときに最初は戸惑ったという話もしていたんです。でするので、なるべく、われわれも初めて中途採用するということで、われわれも受け入れるシステムができてなかったんですが、だんだん蓄積が出てきたので、給与体系を含めて、実際新卒で入った方と中途採用で入った方、最初是一緒が良いと思いましたが、分けたほうが良いかと、このごろ思います。処遇についても一定分けたほうが良いかと思っています。

最後にしますが、例えば、カサハラさんはその典型なんですよ。彼が、最初から事務となると、それはさすがに違うと思っていて、彼は持ち前のフットワークとか営業力はもともとポジションでここが良いというがあるので、一定の役所の昇進のところからいって、

はずれて、いかに能力を発揮することもあり得ると思う。

ただし、図書館でも病院でも、チームなんですね、実際やるのは。チームでやっていきますので、そうなったときには、中途採用も新卒も関係ない、あるのはやっぱり人柄です。人柄採用ですので、これからやっぱ人柄なのかと思っています。ですので、いろいろな複雑な要素があって。私は当たり外れといって、非常に申し訳ないことですが、この部分でハズレだけど、この部分では大当たりということも。この適正配置というのはやっていこうと思っています。

議長／1 番 朝長議員

朝長議員／どちらにしても、これは個人個人違う問題ですから、それを見極めて適正に評価して、本人のモチベーションが上がるような人事制度を充実させていただきたいと思います。

これは先の話と重複するかもしれませんが、チームワークとなると自然にできるのかなと思います。中途採用は一般企業で考えるとその人の持っているスキルを買うというイメージで、即戦力というのがほしい、一般企業では、そういう考えで中途採用をやっている。その場合は、中途採用というのは能力があるけど、年齢が上だから先が短い。いかに持っている能力をいかに若い人たちに移転していくか。それについて具体的に取り組み等があればお願いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／ノウハウの継承って、実は凄く簡単なんです。これは、仕事をさせれば、このノウハウというのは、おのずと継承される。例えば、図書館の問題があったときに、実際に、非常に失礼な言い方になるかもしれませんが、ニシキオリ(?)さんが担当してた。最初はできないとかいってたんですよ。病院のときはヒラカワさん。最初やれといったら、私なんかできません。だけど、1年2年経ったときに、爆発的な伸びをしたんです。ですので、やはり、中国大使だったイチロウ(?)さん、あの中国大使としては大したことなかったけど、経営者としてはものすごい。人は仕事でしか鍛えられないって、良い仕事に良い上司がいたら、部下は必ず鍛えられます。ですので、そういう環境をちゃんと作る必要があるだろうと思っています。

この前、DNA のナンバトモコさんと一緒だったんです。慶応義塾大学でシンポジウムで一緒だった。難波さんたちが取り入れているのは、1週間抱持ちをさせる。トップの。これって全然違いますよ。市役所で言うと私ですよ。トップの抱持ちという言葉が適切かはわかりませんが、なるべく一緒にいるようにしたら、ものすごく伝わるものがあるというんなひとから聞いて、それもそうかな、と思いました。

私の経験から言うと、某大臣にお仕えしたときに、だれも知っている大臣です。

しばらく抱持ちをして、これが私の 12 年間の役人人生の経験で、一番良い経験。大臣は、こういうふう意思決定をするとか、こういうふう説明するんだとか、私もいえる立場じゃないくらい勉強させてもらった。そういう環境が、執行部がつくるんだと。マニュアルとか研修とかの問題とかじゃなくて、日頃の仕事で、良い仕事をわれわれがする。そこに良い上司がいて、背中をみて、仕事ぶりをみて、鍛えられると認識しています。ヒラカワさんたちとか実例がいますので、非常に良い上司になると思います。第二のヒラカワさんとか、ニシキオリさんが増えていくのが、武雄市の市民の維持向上に直結すると確信しています。

議長／1 番 朝長議員

朝長議員／私も、武雄市の職員の皆さんは、非常に高い能力の方が揃っていると感じております。これをしっかり盗ませる環境をつくるというか。そばに置いてやって、そういう環境作りで。どんどん、年数が経った人は入れ替わりますので、こなしていただくことをお願いして、私の質問を終わります。

議長／以上で、1 番 朝長議員の質問を終了させていただきます。

以上で、本日の日程は…

24 番 谷口議員

谷口議員／朝、黒岩議員が議事進行だされて、そのあとされるだろうと思って、そのときに申し上げようと思って、私は。しかし、記録にとどめたいから、このことは議事進行の中ではっきりで発言申し上げたいと思います。

内容については…よろしいでしょうか、質問して。

議長／私にとりかはからいをいってください。

谷口議員／実は、きのうの私の質問の中で、*****

そのことについて、いわゆる説明をせんといかん。私がいかにもうそをついたようにいって、私だけじゃなくて、議会が嘘をついたようにしておわっちゃいけませんので、名誉のためにきちんと言いたい。しずかにしなさい。

その資料をですね、教育委員会に提出を求めておりましたが、やっときょうになって、手元に入りました。それを議長に提出して、資料があったことを議事録に残したい。議事進行は、議事を正確に進めるためのものの…

議長／もうやめてください。わかりました。今の、24 番議員の議事進行につきましては、本当は、上田議員の一般質問が 3～4 分遅れました。そのときに、24 番谷口議員といろいろ話をしながら、一般質問の中で足らなかったことで、議事進行で説明するとか、今までそういったことをした事例がないということで、私にその資料があれば、私に出してくださいと、当事者の関係部署に私が渡すとそういう話をした。ですから、私はそういう議事進行はしていませんと。谷口議員。静かにしてください。

谷口議員、私たちはね、議員から、供述していただかないじゃないんですよ。

12 番 吉川議員

吉川議員／議会の運営のやり方で、議長にお願いしたいんですが、先ほどの谷口議員が言われたのは、きのうの一般質問の中身のことです。ここでちゃんとやっておかないと、みんなこういう質問しますよ。議事進行、こういう中身でよかったらみんな、一般質問の中身を言いますよ。ここは、きっちりと整理していただいて、閉会していただきたいと思います。

議長／23 番 黒岩議員

黒岩議員／まったく、私が今朝言ったのは、武雄市議会が無法地帯になってるか。いろんな、例えば公職選挙法違反とか、どがんなっとうとという質問がありました。著作権問題とかこういう問題がなされたのにたいして、結論を出さないということは、議会として、いかがですか。こういうことに対しては、ちゃんとしておいたほうが、傍聴者もいますので、提示しなければ、武雄市議会の品位を落としますよと。本当はもっと言いたかったんです。私は、きのうは伊万里市にいていたので、いいませんでした、こういうことはちゃんとしてくださいということで、きのうのことは終止符をうったんです。いいときに、またそれをするとき、それは次の議会に活かすための議事進行を出したんです。今の発言で、全く違う。それも私の名誉のために言っておきます。

議長／12 番議員と 23 番議員の議事進行については、貴重な御意見を賜ったと思います。先ほど言いましたように、こういうのは今から出になると。そこで、谷口議員とは、事前に、私に資料をだしてくださいと。私は担当部署に資料をあげますという話し合いのもとに、それですましたつもりだったんです。あなたは、いろんな話をできない。信用できない状況になってきますよ。

21 番、牟田議員

牟田議員／ちょっとお尋ねしますが。議事録に残したいからという言葉を使って、議事進

行を出されたら、議事進行残すんですか。自分の、議事録に残したいからと。私は議事進行いいと思いますよ。議事に対する進行だから。でも議事録に残したいから、言いますという言葉を使って内容も***と。そういうのは議事録やっぱり残すんですか。削除するとか何かないんですか。そこらへんのところをおたずねします。

議長／議事進行の発言…。21 番議員の今の議事進行ですが、議事進行ということで、許可しました。しかし、全文を議事録に残すためとか、発言をしておられますので、議事整理の中で、議事録には残しません。

以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。本日はこれにて散会いたします。おつかれさまでした。